



主任臨床検査技師 土居 祐子

輸血は、自分の体で十分な血液を作れない場合や出血が大量なために生命の危険が生ずる場合などに、ヒト由来の血液（血液製剤）で補う治療法です。

献血された血液は安全対策として感染症の検査が行われており、その精度も向上しています。現在、輸血後肝炎などの危険性は大変少なくなりました。しかし危険性が完全にゼロになるわけではありません。献血者がウイルス感染ごく初期の場合などウイルスを検出できないこともあるからです。

このため厚生労働省は輸血をおこなった2～3か月後の輸血後感染症検査の実施をすすめています。



輸血が原因で健康被害が生じた場合には「生物由来製品感染等被害救済制度」という国の補償制度がありますが、この補償を受けるためには輸血前後の感染症検査が必要となってきます。

仁淀病院では平成28年度より輸血を受けられた患者の皆さんには、『輸血後感染症検査のおすすめ』という用紙をお渡ししています。輸血後の安全確認のため、また万が一輸血によってウイルス感染症にかかった場合の早期対応のためにも輸血後感染症検査を受けることをおすすめします。

◎輸血後感染症って何ですか？頻度はどれくらいですか？

輸血が原因でB型肝炎、C型肝炎、エイズウイルスなどに感染することです。

頻度はB型肝炎で輸血30～40万回に1回、C型肝炎、エイズは100万回に1回未満と推定されています。

◎検査の内容は？

厚生労働省の指針に準拠して下記の3項目を行います。血液検査ですので10ml程度の採血が必要です。

- ・B型肝炎ウイルス検査：HBV核酸増幅検査
- ・C型肝炎ウイルス検査：HCVコア抗原検査
- ・エイズウイルス検査：HIV抗体検査

◎検査費用はいくらかりますか？

健康保険3割負担の場合で約2,000円です。別途、初診または再診料や判断料がかかる場合があります。

◎検査結果はいつわかりますか？

検査結果が出るまで1週間～10日くらいかかります。

◎最後に輸血してから6か月過ぎましたが検査は受けられますか？

検査を受けていただくことは可能です。早期発見のためにも最終輸血日の2～3か月後を推奨しています。



◎検査を受けるにはどうしたらいいですか？

お渡しした『輸血後感染症検査のおすすめ』の用紙を担当医にお見せください。

検査は他の病院で受けることも可能です。その場合も『輸血後感染症検査のおすすめ』の用紙を通院中の病院の担当医にお見せください。

訪問歯科診療のご案内

有料広告

寝たきりなどの理由で通院できない方、認知症などで自分の歯みがきが不十分な方のために、自宅や施設でご希望に沿った歯科診療、口腔ケアを行っています。医療保険自己負担金のみで交通費はいただいております。



安光歯科

いの町天王南2丁目1-1
(天王ニュータウンサンプラザ西隣)

☎891-6488

安光歯科

検索